



2024年7月24日

各 位

会社名 アミタホールディングス株式会社
代表者 代表取締役会長 兼 CVO 熊野英介
(コード番号：2195 東証グロース)
問合せ先責任者 代表取締役社長 兼 CIOO 末次貴英
T E L (075) 277-0378 (代表)

シンポジウム【シリコンアイランド九州からのサステナブル宣言】に関するお知らせ
～アミタグループ、九州を起点にアジアにおける
半導体産業のサーキュラーサプライチェーン構築を目指す～

アミタホールディングス株式会社（以下、当社）は、2024年7月23日（火）に、福岡県北九州市でシンポジウム【シリコンアイランド九州からのサステナブル宣言】を開催しました。九州エリアの企業、団体、自治体を中心に、約120名の方にご参加いただきました。

本シンポジウムでは、半導体産業のサーキュラー化をテーマに、循環モデルの構築に取り組む企業経営者や研究者等による講演やディスカッションが行われ、サーキュラーサプライチェーンの構築に向けた業界全体での連携の重要性が再確認されました。

アミタグループは今後、北九州循環資源製造所のシリコン再資源化事業ならびに九州全域に広がる多様なネットワークを軸に、半導体業界のサーキュラー機能を担い、シリコンアイランド九州を起点とし、アジア全体における同産業のサーキュラーサプライチェーンの構築を目指します。



<鼎談の様子>

記

1. イベント概要

半導体産業は、長期的に確実に市場が拡大し国策としても重要な産業である一方、他産業と同じく資源枯渇、気候変動、国際情勢の緊迫化といったリスクに直面しています。同産業の今後の持続可能な成長には、環境負荷が低く、調達リスクを低減する、循環型サプライチェーンの構築が必要不可欠です。

本シンポジウムでは、半導体産業の循環化に取り組む先駆者として、インド環境大手 Re Sustainability 社のエグゼクティブディレクター Masood Mallick 氏、シリコンウェーハの製造

大手（株）SUMCO 取締役専務執行役員の加藤健夫氏、元環境事務次官で現在は日本製鉄（株）の顧問を務める中井徳太郎氏、（一社）サステナブル経営推進機構理事長の石田秀輝氏をお招きし、業界全体の持続可能性向上について、業種業界の垣根を超えた議論を実施しました。またシリコンアイランド九州を代表し、北九州市長の武内和久氏より来賓挨拶をいただきました（※詳細プログラムは[関連リリース](#)参照）。

2. シンポジウム報告

シンポジウムでは、半導体産業の動向や、サプライチェーンの不確実性や電力消費といった環境フットプリント等の課題、また持続可能性向上に向けた各社の考えや取り組みなどが発表されました。また、産業のサーキュラー化はカーボンニュートラルやネイチャーポジティブの実現にも寄与すると述べられ、トレードオフを起こさない変革の重要性が語られました。さらに、循環モデルやサーキュラーサプライチェーンの構築に向けては、九州をはじめ地域の特性を活かした価値創出、目的や認識の共有による信頼の醸成、そして信頼に基づく共創の重要性などが再確認されました。アマタ HD 代表の末次は、このような業界全体での共通概念が「サステナブル宣言」に繋がるのではないかと、鼎談を締めくくりました。

3. 今後の取り組み

九州エリアには現在、日本の半導体企業の3分の1以上にあたる1,000社もの関連企業や産業振興団体が集積し、広範なビジネスエコシステムが形成されています。アマタグループは「シリコンアイランド九州」を起点に、業界全体での協力体制を強化し、日本国内ひいては世界における同産業のサーキュラーサプライチェーンの構築を目指します。

直近では、シンポジウムと同日に北九州循環資源製造所のシリコン再資源化設備の3号機の落成記念式典を行いました。この3号機によるシリコン再資源化事業の強化を軸に、半導体業界におけるサーキュラー機能を担い、九州を中心に同産業のサーキュラーサプライチェーンの構築を牽引していきます（シリコン再資源化設備の増設については[関連リリース](#)を参照）。

※本リリースは、北九州市政記者クラブ、経済産業省記者クラブに、同日同時刻に投げ込みを行っています。

4. 業績に与える影響

本件が当社の業績に与える影響は軽微です。

以 上

■関連リリース

2022年11月25日

[アマタ（株）北九州循環資源製造所にシリコン再資源化設備の1基増設を決定](#)

2024年4月15日

アマタグループ、DX 推進によりシリコンリサイクルの省人運転を開始

2024年7月23日

アマタホールディングス（株）、北九州循環資源製造所のシリコン再資源化設備3号機の増設が完了